

厚生労働省クラスター対策班による助言等の概要

院内における感染者の発生を踏まえ、厚生労働省クラスター対策班に調査協力を依頼しました。現地確認や感染発生状況の分析に基づく調査結果及び助言の概要は以下のとおりです。

- ◆ 院内へのウイルス流入経路は不明である（ただし、感染症専用病棟から流入した可能性は極めて低い）。院内での職員における感染伝播は、同一チーム内での接触・飛沫感染、カンファレンス、休憩室内で会話しながらの食事等が考えられる。
- ◆ 各病棟で早期の事例探知ができたこと、全病院体制での対策会議や保健所の介入が早期かつ丁寧に行えたことにより、早期に関連部署の閉鎖と隔離対応ができた。
- ◆ 4月28日を最後に新たに陽性者は発生しておらず、感染は収束していると考えられる。
- ◆ 救急病院であり、市中からの紛れ込みは今後も想定されるため、次のような対策が必要である。
 - 発症者の早期探知と早期隔離
 - 感染予防策の実施状況の確認と改善（職員の教育と実施状況の評価）
 - 職員の健康確認を実施し、体調不良時の就業制限を徹底
 - 病棟横断的なスタッフが混在する休憩室の環境、使用状況の見直し